

が20日ぐらいには出るそうですので、その結果次第で国に出せるかどうかというのは決まら  
らしいので、幾ら和音が来る、巨樹の会が来ると言うたところで、それが通らないことには病院  
はつくれないのですから、それで全部の市民にこのことをわかってもらったかと、あんまり期  
待がすごいですよ。だから、もし来れなかった場合はガクッときますから、とにかく20日の  
結果を待ってから、本当、私なら発表すべきだったと思うんですけど、私が責めた、責めたとい  
うことですから。（発言する者あり）

以上です。

○議長（堀江 政武君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（堀江 政武君） 暫時休憩します。再開は11時5分からとします。

午前10時51分休憩

午前11時04分再開

○議長（堀江 政武君） 再開します。

10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） 改めまして、皆様、大変お疲れさまでございました。会派つし  
まの波田でございます。

質問に入る前に、お願いが1つあります。できますなら、今回の国政、衆議院選挙について、  
我が対馬も国境新法制定がそこまで見えてきていると聞いております。マスコミなどの報道によ  
りますと、投票率が悪いのではなかろうかという報道もあっております。そこで、我が対馬の本  
気度を今までにない投票率でこたえるべくため、市長みずから市民へ呼びかけていただけないか  
お願いをして一般質問に入りたいと思います。

平成26年も残すところわずかとなり、本年の議会もこれをもって最後の一般質問となりまし  
た。新年度を迎えるに当たり、通告しておりました対馬市における人口流出の歯止め策、より強  
固に進めていただくためにも、これまでと違った取り組みなど、市長の考え方をお伺いしたいと  
思います。

今までにも同様の質疑もあっておりますので、私は市長の隠し玉的な施策でもありますなら、  
あえてお尋ねさせていただきます。

人口流出対策での市長の考え方、方向性、先日よりお聞きし、若年女性から出生率向上、自然  
増アップとでも言いますか、取り組みであるように私なり感じました。私は、将来のために今や  
らなくてはならないことに着目したいことから、現実的な取り組みができないものなのか探っ  
てみたいと思います。

次に、教育施設における安全対策とその取り組みについて、教育長にお伺いしたいと思います。各種学校の統廃合により、数が少なくなった教育施設へ訪問してみますと危険が潜んでいる箇所が見受けられます。

その中でも今回私は最も着目したいことは、対馬市が抱えている大きな問題の一つでもあります。イノシシと鹿の対策についての観点からお尋ねしたいと思います。

教育施設においての、特に学校のグラウンド関係であります。イノシシや鹿の突発的な侵入の防止策、例えば、施設全体に金網フェンスなどで囲むなど、万一の対策は万全なのかお尋ねいたします。

農作物を守り、住民の暮らしを守るため、国や県、そして本市を含め平成10年から現在に至るまで約16億円もの高額な事業費が投入されていることは、皆様が周知されているところではございます。農作物を守ることは大変重要なことであると認識はしておりますが、教育行政の観点から、子供を守ることが最も重要な課題ではないでしょうか。このような観点から、教育施設の安全対策をどのように進められているのか。

先ほど、申しますように、人口減少の歯止め策とあわせて2点について御答弁をお願いしたいと思います。また、教育長の答弁によっては市長にもお尋ねする場合がありますので、その際はよろしく御答弁をお願いしておきます。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 波田議員の質問に答えさせていただきます。

1点目の問題に入ります前に、国境離島特別措置法、対馬市議会、市民の皆様がこの一つの法律制定というものを待ち望んでいただいているという中で、今回の国政選挙における、その投票率という問題が大きく左右すると言っておかしくございますが、意気込みというのをやはり示していく、私自身が示していく必要があるのではないかというふうな投げかけでございました。

今、波田議員が言われたのと全く同じ気持ちでございます。私自身が強要するということはできかねますが、しかし、そういう状況下に今対馬があるということを市民の皆様が改めて感じていただければ大変こちらとしてはうれしい限りであります。

人口減少対策のことが通告されておりました。これについては、今後の進め方というのは先日の小島議員さんと全く同じことになろうかと思っておりますので割愛をさせていただきます。

また、それ以外に隠し玉とおっしゃられましたが、決してこの人口減少対策に隠し玉とかいうものはないと思っております。しかし、今までと同じことを同じようにやっても、恐らく急激に人口減少がとまるとかいうことにはならないのではないかと思っております。

皆さんが思っていることは、現状まず、とどまればまずは御の字だと、あわよくばそれが微増にでも振れば万々歳の御時世なのかなと思っております。

そういう中、この人口減少にはいろんな要因があります。自然減、社会減、それぞれが合わさって人口減少が加速化しているということですが、この社会減についてでございますが、やはり雇用の場というものをどのように確保するのか。しかし、雇用の場というのが、今までのような企業誘致とかいうものでは到底この隔絶された島においては難しいと。ならば、この島独自の雇用のあり方を見つけていかないといけない。農林水産の第一次産業という問題、それから、これに対しての所得が向上できるよう、もしくは経費が節減できるようにしていくことも私どもは考えなくてはならない。

また、ここから出るさまざまな品物の価格というのが、外においてきちんとした適正な価格で取引ができるような方向性を見出していかないとすることもすごく大事だと思っております。

しかし、そう言いながらも担い手が減っていったらはどうしようもありません。それらもしながら、担い手不足の解消ということについての施策も打ち込んでいかなくてはならない。

今回、小川議員さんのほうからも質問がありました。農業、水産業とか、そちらだけではないところでの担い手確保についてのことも打ち出していかないと、外に出ていった若者が戻ってこれない。もしくは、外に勉強に行った人たちがこちらで生かせないということになるかと思っております。

また、島の中の出身者だけではなくて、やはりこの島のよさをわかっていたいただいた方の移住についていいますか、そういうものを促進していくようなことも考えなくてはならないというふうに思っております。

そういう意味においては、先ほどの第一次産業の問題と、それから、仮にこの島の膨大な潜在能力の一つとして、やはりエネルギーの問題があろうかと思っております。そういうものをどのように産業に結びつけていくのかということもすごく大切な要素だと思っております。

ちなみに、ヨーロッパのほうでは、これは私も受け売りの部分ですけれども、ちっちゃな村において地域エネルギー会社なるものによって自立、さらには電力を売りさばいながら、人口が4,000人から2万7,000人にふえたというような村もございます。やはりそのようなことを組み立てをしていかなくてはならないのかなと思っております。

また、自然減の問題につきましては、子供の問題、子育て支援の問題とか、さらにはお母さんの仕事と、その育児の関係、これらについては国のほうで今組み立てを当然真剣にされてることでありますが、市として、市のこの島の産業とか就労環境とかいうのとマッチする地域のつくり込みというのをやっていかないといけないんだろうと思っております。

また、当然これらを進めていくためには、その地域のインフラというものもあわせてやっていかないといけない。また、人のつながりの部分、島内のつながり、そして島の外とのつながりの部分、そういうネットワークづくりというのもすごく重要なこととなりますし、それらのネット

ワークを通じて発信をどんどんしていくことが大事な時代だと思っております。それらのつくり込みによって、私は交流人口というものは当然ふえてくるものだというふうに思っております。国の施策もさることながら、自分たちの町のつくり込みっていうことをしっかりとやるのが、そういう外からの人の入り込みがおのずとふえてくることになろうかと思っておりますので、市民の皆様のお力添えをいただきながら、人口減少をとめる、もしくは現状維持ができる、あわよくば微増に転じられるようなしまづくりというものをしっかりと見据えてやっていきたいものだというふうに思っております。

以上です。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 波田議員の御質問にお答えしたいと思います。

教育施設における安全対策についてということで通告いただいておりますので、安全対策全般に少し触れることとなりますが、いいでしょうか。

建物及びグラウンドについてお答えをいたします。

御承知のとおり、学校施設は児童生徒などが一日の大半を過ごす活動の場であるとともに、非常災害時には地域住民の応急避難場所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は非常に重要であり、それぞれの学校では、学校安全管理マニュアル等を作成し、自然災害等に対しての危機管理に対応ができるようにしているところでございます。

校舎、体育館につきましては、地震防災対策特別措置法による公立学校施設の耐震化事業の補助金が平成27年度末までとなっており、まず地震による安全対策を最優先とし、耐震調査基準以下の校舎及び体育館の建物の耐震補強工事を平成23年度から来年度、平成27年度までの5年間で実施をしております。

グラウンドの整備につきましては、国の補助交付金等を活用し、順次整備していく方向で振興計画に計上をしているところでございます。

また、学校に設置されております遊具等につきましては、学校長を通じ、点検等を行っていただき、修繕の要望があるものについては予算措置を講じ、対応しているところでございます。

そのほか、想定される被害として、特に心配している環境整備として、学校グラウンドへの鹿、イノシシの侵入による獣害対策とダニの問題が学校からも寄せられております。また、山裾や道路のり面に隣接している箇所での岩、小石等の剥落が発生もしているところがあります。

教育委員会といたしましては、地震対策の耐震補強工事を最優先事業として取り組んでおり、獣害等に対する対策をどのようにすればよいか。有害鳥獣対策室など関係する部署との協議を持ちながら、今後とも検討をしていきたいと考えております。

○議長（堀江 政武君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） それでは、まず市長さんとのやり取りに入りますが、先ほどから人口流出のお話が、市長の見解も、私なりも説明はしましたけども、私が今回市長にお願いしたいのは、私なりの見解の話になりますが、先ほど市長が話されますように、雇用の場が一番大事であるということは市長も私と同じ意見かなと思うことから、この人口流出の原因が地域産業の低迷が生活権としての最低の維持がやれないから、対馬にとどまることができないという答えじゃないかなと思います。

そこで、市長のこれまでのいろいろな活動を拝見しますと、尽力されていることは私も理解しております。

私は一つに、対馬の再生は公共事業の発注がバロメーターではないかなと、このようなことを視点として考えております。

と申しますのが、我が長崎県でも、本市は他市に比べて予算規模も多額に計上されております。市長が常々お話されております国境離島の特殊性を生かして逆転の発想を肝に入れて公共事業の誘致とかしっかりとやっていただくことが定住促進につながるのではないかなと、私なりに考えながら、市長の力量を拝見させてもらっております。

そういう中で、人づくり、企業づくりの観点から、私は市長にあえてお願いしたいんですが、この公共事業の参加基準について触れたいと思います。

提出していただいております結果通知を見ましても、かなりの発注があつてるようにも思いますが、この参加基準についてももう少し緩和措置がとられたとするならば、地元につかなく仕事が、公共事業があるのに、そこに従事する人たちが残れる体制がとれるんじゃないかなと思うところが私の気づいたところでございます。

小さな企業を育てることは大変難しいかもしれませんが、過疎化が進む対馬において、この定住促進のためには公共事業を通しての人材、企業づくりが必須じゃないかなと、私なりに思うところもあります。

なぜこんな話をするかといいますと、近い将来、過去において公共事業が乱発とでもいいでしょうか、あり過ぎまして、日本が将来修繕大国になるのは目に見えております。そういった意味からしましても、我が対馬においても同じ現象になるのではないかなと危惧しているところもあります。

そのときに備えて、前々の準備が今必要じゃないかなと。人を育てることが、市長が市長としての目的と使命ではないでしょうか。こういったところから、今回は若干的を絞っての話になりましたけども、働く人がいない、若い人たちが定住してない、それは島で生活ができなから若い世代が出ていく。それに伴って、子供たちも一緒に流出するというような悪循環になっておると思うんですね。

そういった意味から、私が思うバロメーターが必ずしも正しいとは言いませんけども、もう少し基準を市長は緩くしていただいといますか、皆さんが参加できるような体制はないものなのか。その辺はいろいろの発注で難しいところもあるかもしれませんが、対馬は市長が決めればある程度のもは法を犯さない限りはやっていけるんじゃないかなと、これまでの市長さんのいろんな債務負担なりいろんなやってこらさったことを見ましても、やる気になった場合にはやれるところもあるんじゃないかなろうかというところを感じますので、そういった意味合いからも人材を残すためにいま一度考えていただきたいなと思いますので、何かありましたらよろしくお願ひします。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 企業づくりが、また人づくりになっていくんではないかというお話でした。公共事業費の多寡がバロメーターにもなるんではないかというふうなお話でございます。社会インフラがあまりにもほかの地域と比べて遅々として進まない、それはこの対馬の地形とかいうのが要因で出てきますが、同じ100万円を投資をしても、仮に道路であれば、他地域であれば、仮に100メートル延びるところが対馬においては、同じ100万円を投資されても30メートルしか延びないというふうなところを私どもは、そのことの今までの積み重ねで社会インフラがおくれてしまっているというふうに思っております。

そういう意味においては、今公共事業費というふうなお話がありましたが、社会インフラの整備ということについては、せんだっても九州地方整備局において局長さんに1時間の話をさせていただきました。そのあたりのこともずっと言い続けております。

片や皆さんと一緒に取組んでおります国境離島の特別措置法というものがある意味で上がるならばですね、上がるならば、今後仮に10年とか20年の国の国境離島に対する方向性というのが見えたときに、この島でのつくり込みというもおのずと出てくると思います。はっきりと見えてくると思います。そうしますと、一度流出した若者たちとか、さまざまな方たちが今後島がこういう方向に行くんだなと、そういう中で落ち着いてここで時間、先が見えないことよりも、先が見えてくることによってUターンというものが起こってくるんじゃないかというふうなことも、この法律の含みの中には当然、狙いの中にはありますので、一緒になってやっていくことが、先ほどおっしゃいました公共事業費等にも当然それは波及してくることだろうと思っております。

○議長（堀江 政武君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） あのですね、市長、問題は先ほどからも話す中で新しい国境新法あたりができて、そうなってくるとIターン、Uターンとかある程度見えてくるんじゃないかなろうかという話は当然大枠ではわかります。

しかしながら、毎年毎年減る人口に対して、それが制度が確定するまで待ったとしてもちょっと遅いんじゃないかなという観点から、今やれることの話をしてるわけです。小さいことでもいい、今やれる話をしてるんです。

俗に言う協働隊か、共謀体かありますよね、市長さんの肝入りの。しかし、そういう方も島外からの知恵を入れるためにしてあるじゃないですか。しかし、入れるよりも出るほうが多いから、こういうふうには現状としては答えが出てくると思うんですよ。だから1人でもとどめるためにどうするのかということが大事になってくるんじゃないかな。喫緊っていいですかね、救急に急いでやらなくちゃいけないことが急務であると思うわけですよ。

一つの例で、公共事業の参加基準の話もしましたけども、これは一つの例であります。だから、一つのくりにのっかってということは十二分にわかっております。しかしながら、地元の生活権を脅かさないようにするためには、どうしても地元の人が地元に残って力を出すことが一番大事じゃないかなと思うところからお願いをしているわけでありまして。

だから、将来のことは、もうしっかり話を聞いておりますので理解はしますが、近々、市長、やらなくちゃいけないことを、いま一度見つめ直してもらえませんか。

それはきれいごととか決して言うつもりありません。でも、1人の人でも残すためにはどうするのか。先ほどの話でもありますように、今対馬市が定住人口促進よりも、流動人口を増強させるんだというような考え方にも聞こえるじゃないですか、そうなってくるとですね。しかし、地元は地元で守らないと、対馬は対馬島民で守らないといけないと思いますので、再度小さいことを何か一つやってくださいよ。定住促進につながる施策をよろしく申し上げますが、何かありませんかね、そこで。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、私のここで喫緊、そして短期的な何か良法はないのかというふうなことでありますが、大変申しわけございません、その特効薬となるものが既に私の中にあつたならば、もう既に私自身は恐らく打っているところでございます。手を打っているところでございますが、今それらに対してどのような、本当で、手の打ち込み方が未来へつながっていくのかということを、対策本部等を立ち上げて、県、国もそうですけども、市も立ち上げて動き出しをしようとしているところですし、片や創業支援会議等も、これは市民の皆様の動き出しを行政として支援をしていく、それは行政のみならず、銀行なんかも含めてやっていこうということで動き出しをしてるところであります。どうかそのあたりの部分につきまして、今の問題、そして中長期的な方向性の中で、このような施策が望ましいんじゃないかというふうな御提案を、また別の機会でも結構でございますけども、いただければ幸いです。

○議長（堀江 政武君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） はい、わかりました。考えがあるならば既にやっておるということで、そうですかというわけにはいきませんので、あえて定住促進につながるために、今まで以上に呼び込むことよりも出さないことが大事なんです。だからそのためにどうするかを、ともにまた考えたいなと思っておりますので、またお互い知恵があつたらやり取りをしたいなと思っております。

それでは、次に教育長との話になりますが、先ほど私の通告の内容も不透明過ぎて、いろいろどう答えたかわからないような話があるんじゃないかならうかと思いますが、今回、なぜ私が安全対策の全般について話をしたかといいますと、要は、教育現場でいろんな話はたくさんありますが、後で話しますけども、先日の評価を読ませていただきまして、決して悪いことは何も書いてないからですね、だから評価がよしと言われたところに対して、もう少し詰めさせてもらいたいと思っておりますので、よろしく願います。

といいますのも、きのうも、おとといですかね、小島さんから少し話があつておりましたけども、教育現場においては市長と教育長、しっかり連携はとれとるという明確な評価があつておりました。

そういう中で、また逆に市長は学校に行っていないと、意見交換の場が少ないという、また悪い話もあつてましたよね。ということは、要するに、対馬市のトップが教育現場のことは理解していないということを言われてあると同じことと思うんですよね。だから、そういったことを考えて、なぜ先ほど猪鹿の話をしたかといいますと、10何億円も使つて、学校を今考える必要要らんじゃないですか、もう突発的な事故のために完全に学校を包囲しております、金網フェンスなんかです。そういうことを完全にやってますという答えが欲しかったんですよ。

実は、たくさんまだまだ整備が必要なところはあるとわかっております。学校名は言いませんけど、ほとんどそういったものに関したら手薄かなという思いもあります。だから、これは教育長が予算があることです。なかなか明確な答えが言いづらいたと思いますから、ここはあえてもう一度最終章に聞きますから、そういった意味合いから、私なりに教育長にお願いをしたいのは、この対策にはお金がかかります。教育行政は限られたものだけでやっております。決算のときも言いましたが、いかにお金を使い切らず残していくかというような結果も出ておるようがありましたので、十分過ぎるだけのものをやっていたくためにも、あえてこの話をしながら、若干輪を広げて話をさせていただきたいと思えます。

今回、この評価を見ますと、先ほども言いますように、評価が高い部分を少し掘り下げさせてもらいたいと思えます。

といいますのが、さきの議会でも、この特別支援についての評価が、まずこの中からですよ、この中から先日いただきましたので、スクールカウンセラーとかソーシャルワーカーの支援員



の配置が細やかにされとるというような評価があっておりました。

しかしながら、確かにそういったことはできとるかもわかりません。しかしながら、対馬は、例えば上対馬、下対馬と言いましょか、そういう子供たちが平等に本当に支援が受けられているのかということが今回取り上げたかったんですよ。

といいますのが、利用をする保護者の方から意見をいただいておりますので、ちょっとここで紹介したいと思います。せつかくのこの評価の報告書を否定するものではありませんよ。しかし、配備の整備はできております。しかしながら、十分な利用支援がとれてないという答えなんですよ。配備は確かにしたでしょう。しかしながら、中身はどうなのかということなんですよ。

対馬の状況を考えましても、移動距離が長いじゃないですか。だから、利用する保護者の方々、学校関係の方も意見を聞きますと、複数の専門員を置いていただきたいということが今回の私への話のようにありました。これもなぜ全体観の話かといいますと、教育委員会は精いっぱいやってるんですよ。やってるけども、利用する方々がまだ満足じゃないという答えが出たなら執行者に振るしかありませんので、予算をもう少しとっていただいて、教育行政といいますか、安全、完全に進めていただくために教育長、十分過ぎるだけの予算をいただいとるか、いただいとないか、ちょっと答弁をお願いします。

○議長（堀江 政武君） 教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野 正博君） 今のは特別支援教育に絞ってのことでもいいですかね。

特別支援教育については、私が現職でありました10年前、それ以前につきましては、特別支援学級を開設するについても県の審査等があっておりました。基準があっておりました。今では各学校で必要であるというふうに保護者との相談でなった場合には、例外はあるかもしれませんが、ほぼ開設ができてるという状況であります。

評価について十分であるということの内容ですけれども、それは対馬市が介助員、特別、やはりこう支援を要する子供がいる、だけど特別支援学級に入れるまではない、入るまではない、普通学級で支援をしてもらおうと助かるというところで、対馬市の予算で介助員を入れております。

それから、もう一つの問題が、スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーについて御質問がありましたが、スクールソーシャルワーカーについては、これはただいまのところ県の事業でやっております。

県のほうには、先ほど議員言われましたように、対馬市の地形が縦に長くて1人ではなかなか移動時間もかかるし、無理があるということで、2名配置を要望をしております。要望をしておりますが、これも県の事業でありますので、実現するかどうかはまだ不透明ではありますけれども、そのスクールソーシャルワーカー1人配置に加えて、スクールカウンセラーを2名配置をいただいております。

現場の声を聞きますと、大変助かると、だけど、やはり地理的な問題もありますので、上と下にスクールソーシャルワーカー配置されればありがたいなという声は聞いてはおります。

そういうことで、十分であるということの中にはそういう事情があるということでお答えをさせていただきます。

○議長（堀江 政武君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） はい。わかりました。

教育長が今話されますように、県の事業という御発言もありましたけども、県の事業がいっばいなら、市の予算でも使っても満足いく支援をお願いしておきたいと思えます。

先ほども市長へもお尋ねしたいなというお話もさせておりましたので、ちょっと触れさせてもらいたいと思えます。

といいますのが、先ほども教育長との話のやり取りの中からも、やっぱり予算が絡むことになってくると思えますので、市長もその辺を理解していただきながら考えてもらえればありがたいかなと。

それで、私が今回市長に聞いたかったのは、この間の市報を読んでおりましたら、市報、地域づくり、島おこしのページに獣害から獣財へという、すごくわかりやすく、わかりづらい活字が目に入りましたので、ちょっと紹介したいと思えます。

要するに、猪鹿の被害を被害と捉えず財源としていこうやというような内容やったと思うんです。そういう内容からしますと、この文書の中に事業費投入の割には一向に解決してないと、こうも書いてあるわけですよ。そうなりますと、これは市長はたしか目を通してあると思えますが、無駄なことをしてるのかなと思ったりもするわけですよ。決して無駄とは言いませんよ。しかし、私は市長がこういった活字を許可したということは、猪鹿の被害と共存共栄を図って、対馬しまづくりをしていこうという考えかなと思えましたので、ちょっと見解を聞かせてください。いいですか。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この獣害の問題については、当然ながら市民の皆さんが苦しんでるのは十分にわかっております。しかし、これを短期間でせん滅するとかいうことは物理的に不可能なことをございます。

そういう中、今獣財という、これを資源というふうな捉え方もしながら、その方向性で突き進んでいく、両方、両にらみでやっていく、ただ単にせん滅に向かってするだけではなくて、そのことも資源という捉え方も片やできますよというふうなことを今やっているということをございます。

○議長（堀江 政武君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） 予算規模から見ますと、すぐできないという答えが数字を見ればわかりますが、私の見解では、有害対策は撲滅が第一と思ってます、撲滅がですね。しかし、そういう中でも今市長が述べられますような結果でしょう。しかしながら、そういった猪鹿が生活圏にあらわれるのが今日じゃないですか、そうなるって本当に人身事故が多発するようになったときに、そんなことが言えるのかということなんです。被害に遭った人から考えますと、そういう言葉は聞きたくないじゃないですか。だから、そういう悠長な考えじゃなくて積極的に取り組んでもらいたい。

今、行政としてやらなくちゃいけないことはたくさんやってあると思うんですよ。ただ、こういう活字で出ますと、住民感情があまりよろしくないんじゃないかな。この内容を見ますとね、イノシシの災害、猪鹿だけが悪くないと書いてあるんですよ。餌を放置する人間が悪いと書いてあるんですから。誰が書いたかわかりませんがね。そういうことを考えたときに、やっぱり本当にお金がかかることには、先ほどの教育委員会の話ではありませんけれども、しっかりお金を使ってくださいよ。この問題と教育委員会への子供たちの安全対策を言いたかったからあえてこの話をさせてもらってます。

だから、本当で安全対策のためにですね、市長、お金が要するのなら、必要枠だったとするならば、しっかり組んでいただきながら、今後対応してもらえればなあと、このように思っております。何とかみんなが安心して暮らせる島を、また学校現場をつくってもらえるようお願いしておきます。

それと、もう1点です。最後に、市長が我々議会がいろいろ提案、提議したのに対して、こういう一覧表で結果は中間発表なり、継続中なりという答えを出していただいています。これ非常に新しく新鮮さを感じます。というのが、やっぱりどうなっているのか、皆さん、20数人の議員さんがここでお話することがよく目に見えてこないじゃないですか。そういった中でもこういうものを出していただければ、一歩前進したかなと、すごい試みかなと思っております。

そういう中で、市長、せっかくやったら、私が前回もお船江とか豆殿の話もさせてもらいました。進捗状況も書いてあります。だから、市長、議員さんの提案に対したら全力で取り組んでおるんだということを最後に発表していただければ、私はこれで一般質問を終わりたいと思いますが、どうでしょうか。よろしく申し上げます。

○議長（堀江 政武君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 議会のほうからさまざまな提案をいただいておりますが、やれる範囲しっかりやっていきたいと思っておりますし、財源見合いとの問題が当然ございます。そのあたりを見ながら、優先順位等も自分なりでもつけながらやっていきたいというふうに思っております。

○議長（堀江 政武君） 10番、波田政和君。

○議員（10番 波田 政和君） ありがとうございます。

では、以上で終わらせてもらいます。

○議長（堀江 政武君） これで、波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（堀江 政武君） 以上で予定の市政一般質問は全て終わりました。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午前11時54分散会

---